

# 10. ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力）

## (1) 男女間での暴力の被害経験

※これまでに結婚（同棲・事実婚を含む）したことのある方にうかがいます。

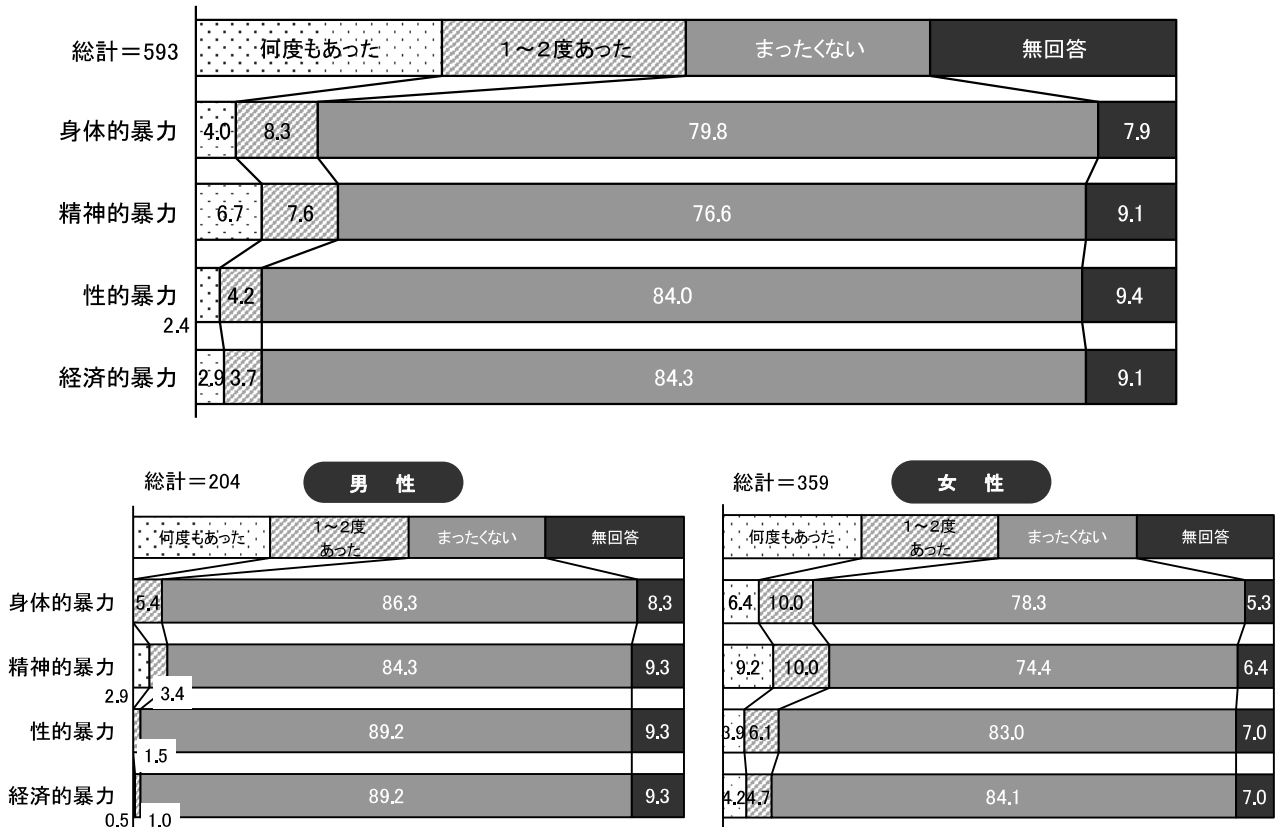
問21 あなたは、これまでに、あなたの「配偶者」から（ア）～（エ）のようなことをされたことがありますか。（それぞれ1つに○）

※「配偶者」には、別居中の夫婦、婚姻届を出していない同棲・事実婚の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、同棲・事実婚を解消した相手）も含まれます。

男女間での暴力の被害経験については、“身体的暴力”が12.3%、“精神的暴力”が14.3%、“性的暴力”“経済的暴力”がともに6.6%の人が『被害を受けたことがある』と回答しています。「何度もあった」の割合が最も高いのは“精神的暴力”の6.7%となっています。

男女別にみると、すべての暴力において、女性が受けた割合が男性の受けた割合を上回っています。

図表 I-68 男女間での暴力の被害経験（単数回答）



※『被害を受けたことがある』＝「何度もあった」＋「1～2度あった」

○身体的暴力：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

○精神的暴力：人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的ないやがらせを受けた、あるいは、あなたやあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた

○性的暴力：いやがっているのに性的な行為を強要された

○経済的暴力：生活費を入れない、家のお金を持ち出す、借金を繰り返すなどの経済的な暴力を受けた

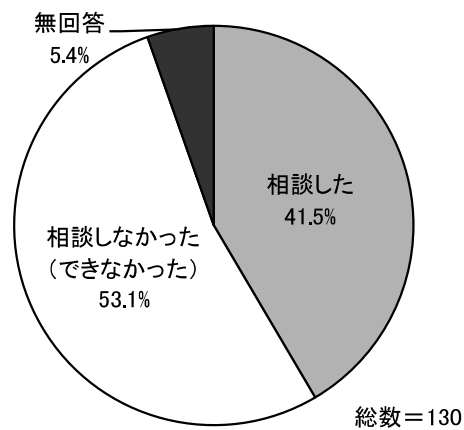
## (2) 暴力を受けたときの相談の有無

※問21の(ア)～(エ)のいずれかで「1か2」を選ばれた方にうかがいます。

問21-1 その際、あなたはだれかに相談しましたか。(1つに○)

配偶者等から暴力を受けたときの相談の有無については、「相談した」が41.5%、「相談しなかった(できなかった)」が53.1%となっています。

図表 1-69 暴力を受けたときの相談の有無 (単数回答)



### (3) 暴力を受けたときの相談先

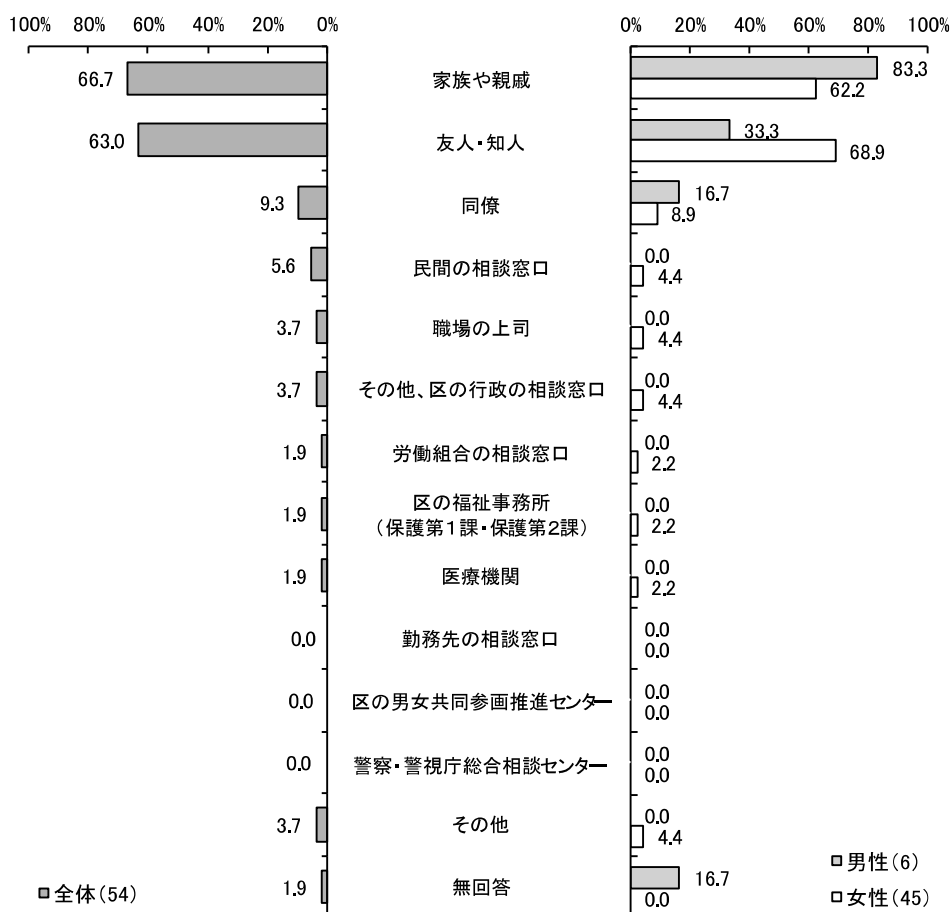
※問 21-1 で「1. 相談した」を選ばれた方にうかがいます。

問 21-2 あなたは、だれ（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

配偶者等から暴力を受けたときに相談したという方の、相談先については、「家族や親戚」が 66.7%と最も多く、次いで「友人・知人」が 63.0%、「同僚」が 9.3%、「民間の相談窓口（弁護士・カウンセリング機関など）」が 5.6%と続いています。

男女別にみると、「友人・知人」は女性の割合が男性の割合を 35.6 ポイント上回り、「家族や親戚」は男性の割合が女性の割合を 21.1 ポイント上回っています。

図表 I-70 暴力を受けたときの相談先（複数回答）



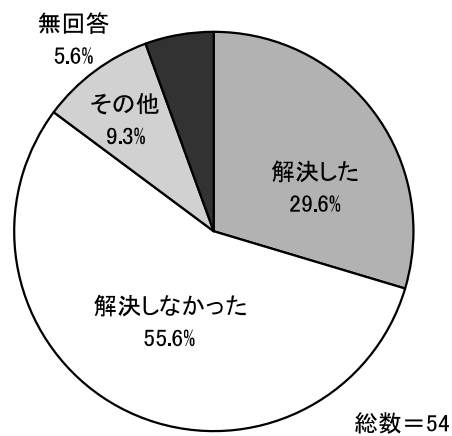
#### (4) 相談による解決の状況

※問 21-1 で「1. 相談した」を選ばれた方にうかがいます。

問 21-3 あなたが受けた問題は、相談することによって解決しましたか。(1 つに〇)

配偶者等から暴力を受けたときに相談したという方の、相談による解決の状況については、「解決した」が 29.6%、「解決しなかった」が 55.6%となっています。

図表 1-71 相談による解決の状況（単数回答）



## (5) 相談しなかった・できなかった理由

※問 21-1 で「2. 相談しなかった（できなかった）」を選ばれた方にうかがいます。

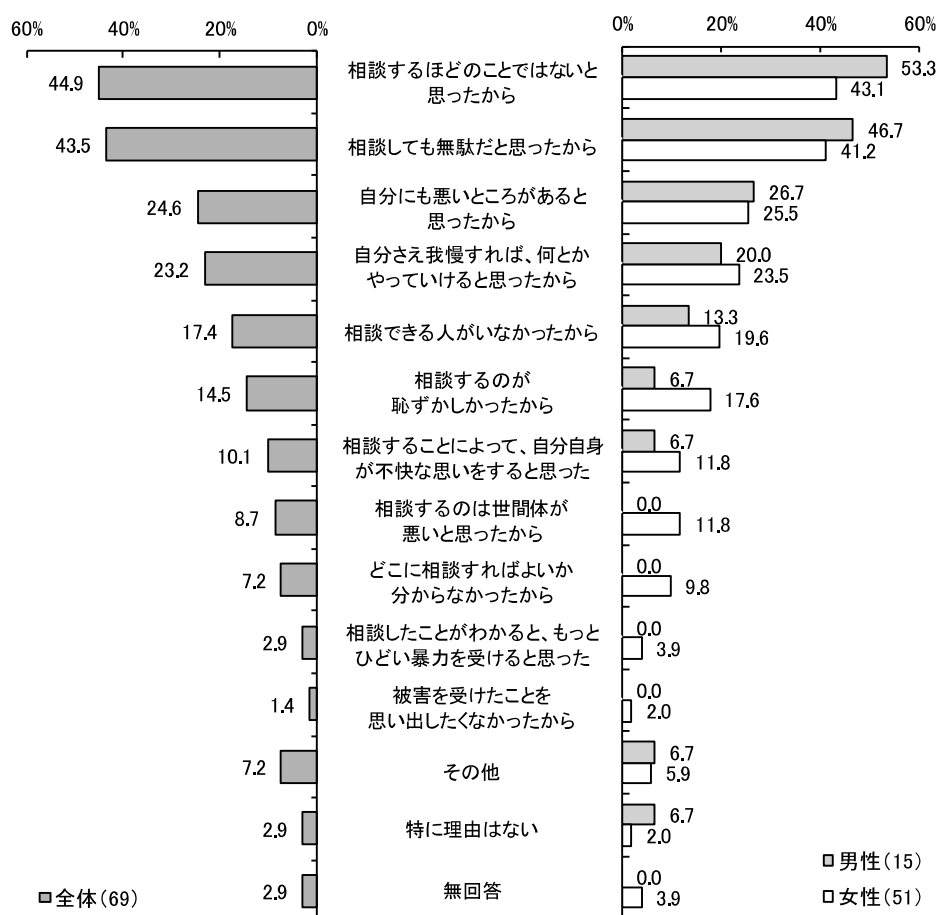
問 21-4 だれ（どこ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○）

配偶者等から暴力を受けたときに相談しなかった（できなかった）という方の、相談しなかった、できなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 44.9%と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 43.5%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 24.6%、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけるといったから」が 23.2%と続いています。

男女別にみると、「相談するのが恥ずかしかったから」が、女性の割合が男性の割合を 10.9 ポイント上回っています。また、「相談するのは世間体が悪いと思ったから」「どこに相談すればよいか分からなかったから」「相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けるといった」「被害を受けたことを思い出したくなかったから」は、女性だけの回答となっています。

図表 1-72 相談しなかった・できなかった理由（複数回答）



## (6) 暴力防止や被害者の支援のために必要な対策

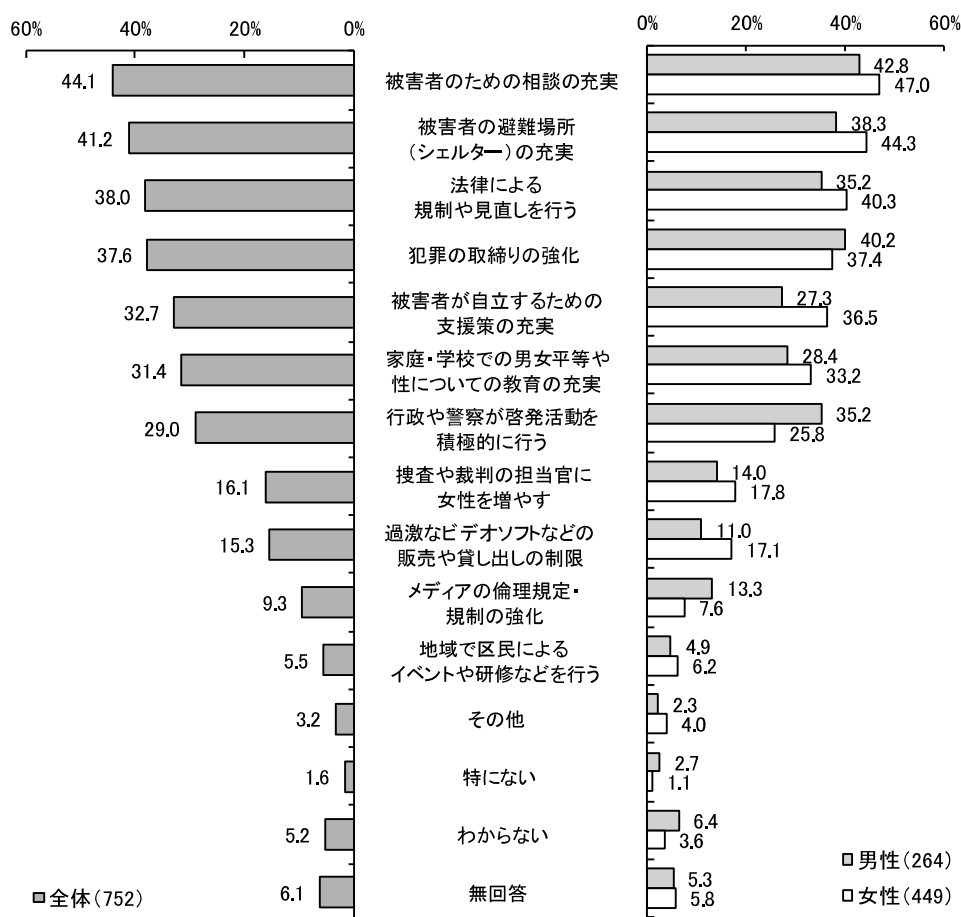
問 22 あなたは、配偶者（元配偶者を含む）や恋人などのパートナーからの暴力の防止や被害者の支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。

（あてはまるもの3つに○）

暴力防止や被害者の支援のために必要な対策については、「被害者のための相談を充実させる」が44.1%と最も多く、次いで「被害者の避難場所（シェルター）を充実させる」が41.2%、「法律による規制や見直しを行う」が38.0%、「犯罪の取締りを強化する」が37.6%と続いています。

男女別にみると、「住居や就労のあっせん、経済的援助など、被害者が自立するための支援策を充実させる」が、女性の割合が男性の割合を9.2ポイント上回っています。

図表 I-73 暴力防止や被害者の支援のために必要な対策（複数回答）



性・年齢別にみると、「犯罪の取締りを強化する」については、女性の20～39歳で5割台となっています。また、「被害者の避難場所（シェルター）を充実させる」は、女性の30～39歳で5割台半ばとなっています。

図表 I-74 暴力防止や被害者の支援のために必要な対策（性・年齢別）

	合計	被害者のための相談の充実	被害者の避難場所（シェルター）の充実	法律による規制や見直しを行う	犯罪の取締りを強化する	被害者が自立するための支援策の充実	家庭・学校での男女平等や性についての教育の充実	行政や警察が啓発活動を積極的に行う	捜査や裁判の担当官に女性を増やす	過激なビデオソフトなどの販売や貸し出しの制限	メディアの倫理規定・規制の強化	地域で区民によるイベントや研修などを行う	その他	特にない	わからない	無回答
全体	752 100.0	332 44.1	310 41.2	286 38.0	283 37.6	246 32.7	236 31.4	218 29.0	121 16.1	115 15.3	70 9.3	41 5.5	24 3.2	12 1.6	39 5.2	46 6.1
男性/18～19歳	5 100.0	2 40.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	24 100.0	12 50.0	6 25.0	7 29.2	8 33.3	3 12.5	7 29.2	3 12.5	4 16.7	0 0.0	1 4.2	0 0.0	1 4.2	1 4.2	1 4.2	4 16.7
30～39歳	39 100.0	13 33.3	18 46.2	13 33.3	16 41.0	10 25.6	12 30.8	15 38.5	6 15.4	2 5.1	3 7.7	2 5.1	4 10.3	0 0.0	0 0.0	3 7.7
40～49歳	36 100.0	14 38.9	17 47.2	14 38.9	15 41.7	10 27.8	11 30.6	12 33.3	3 8.3	4 11.1	8 22.2	4 11.1	1 2.8	0 0.0	2 5.6	2 5.6
50～59歳	49 100.0	26 53.1	22 44.9	15 30.6	22 44.9	16 32.7	13 26.5	19 38.8	4 8.2	2 4.1	8 16.3	2 4.1	0 0.0	0 0.0	4 8.2	1 2.0
60～69歳	55 100.0	22 40.0	20 36.4	23 41.8	21 38.2	21 38.2	19 34.5	23 41.8	10 18.2	10 18.2	7 12.7	4 7.3	0 0.0	2 3.6	3 5.5	0 0.0
70歳以上	55 100.0	23 41.8	15 27.3	20 36.4	21 38.2	11 20.0	12 21.8	18 32.7	8 14.5	10 18.2	8 14.5	1 1.8	0 0.0	4 7.3	7 12.7	4 7.3
女性/18～19歳	6 100.0	1 16.7	2 33.3	4 66.7	1 16.7	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
20～29歳	29 100.0	12 41.4	13 44.8	14 48.3	15 51.7	11 37.9	8 27.6	4 13.8	6 20.7	0 0.0	3 10.3	3 10.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 13.8
30～39歳	83 100.0	45 54.2	46 55.4	33 39.8	46 55.4	35 42.2	35 42.2	22 26.5	18 21.7	15 18.1	9 10.8	6 7.2	4 4.8	0 0.0	2 2.4	1 1.2
40～49歳	97 100.0	42 43.3	44 45.4	39 40.2	40 41.2	28 28.9	29 29.9	21 21.6	15 15.5	17 17.5	7 7.2	3 3.1	8 8.2	1 1.0	4 4.1	4 4.1
50～59歳	87 100.0	44 50.6	39 44.8	47 54.0	29 33.3	37 42.5	29 33.3	26 29.9	16 18.4	19 21.8	7 8.0	8 9.2	1 1.1	0 0.0	1 1.1	6 6.9
60～69歳	71 100.0	38 53.5	33 46.5	25 35.2	20 28.2	28 39.4	23 32.4	16 22.5	11 15.5	13 18.3	4 5.6	3 4.2	3 4.2	1 1.4	2 2.8	3 4.2
70歳以上	75 100.0	29 38.7	21 28.0	19 25.3	17 22.7	21 28.0	23 30.7	25 33.3	14 18.7	13 17.3	4 5.3	4 5.3	2 2.7	3 4.0	6 8.0	8 10.7

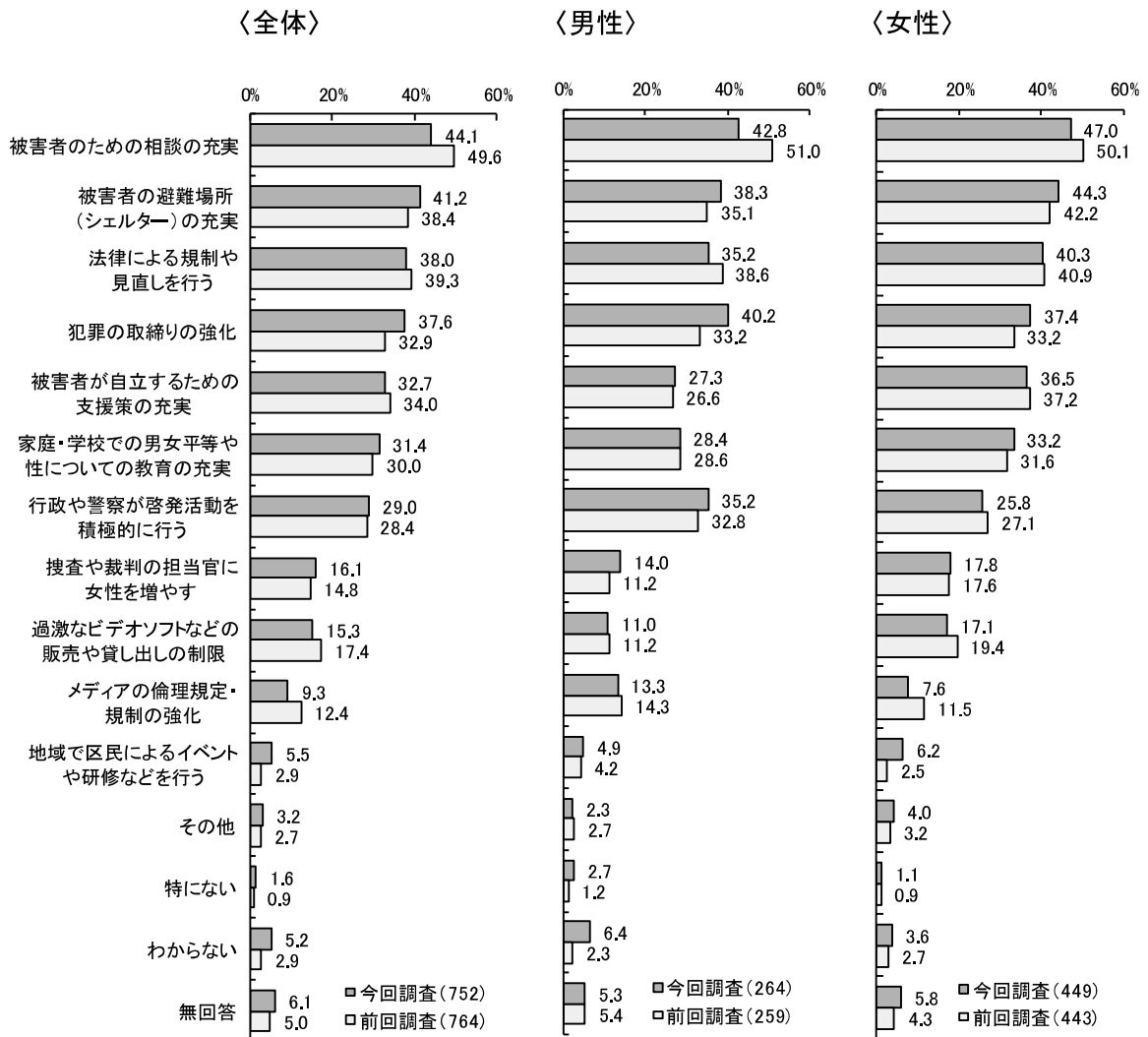
※上段：回答数・下段：%

## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「被害者のための相談の充実」が5.5ポイント減少しています。  
男女別にみて、最も大きく増加しているのは、男女ともに「犯罪の取締りの強化」で、  
男性は7.0ポイント、女性は4.2ポイント増加しています。

図表 I-75 暴力防止や被害者の支援のために必要な対策（複数回答）





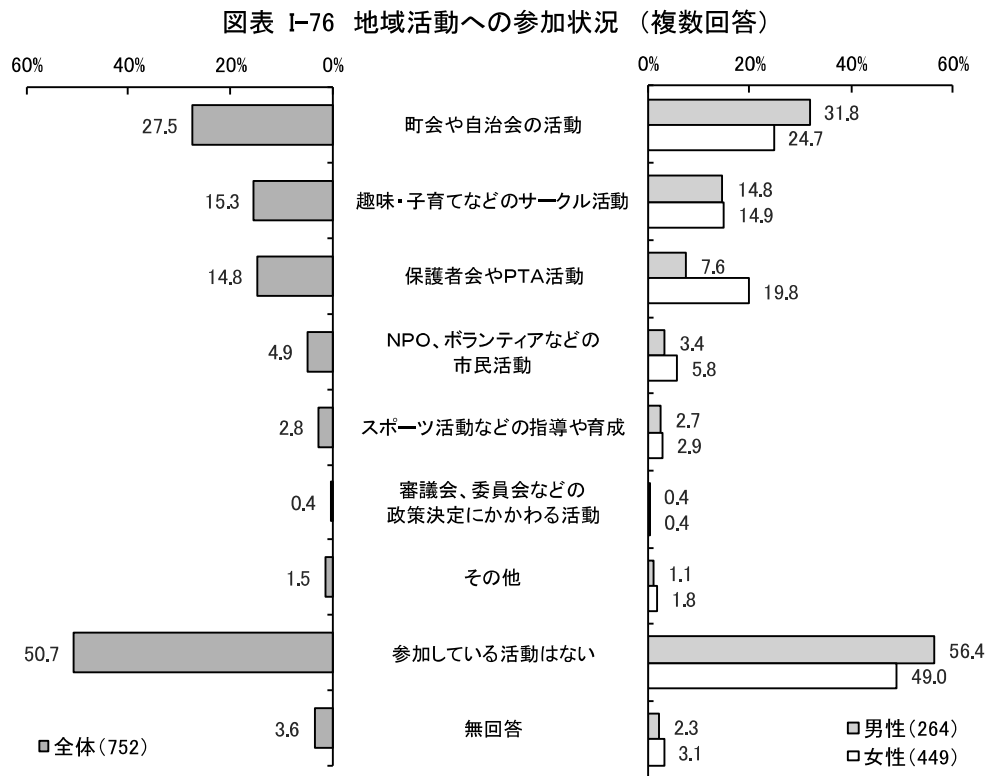
# 1 1. 地域活動・防災活動

## (1) 地域活動への参加状況

問 23 あなたは、この 1 年間に現在お住まいの地域で以下のような活動に参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動への参加状況については、「町会や自治会の活動」が 27.5%と最も多く、次いで「趣味・生涯学習・スポーツ活動・子育てなどのサークル活動」が 15.3%、「保護者会やPTA活動」が 14.8%、「NPO、ボランティアなど市民活動」が 4.9%と続いています。一方「参加している活動はない」は 50.7%となっています。

男女別にみると、「町会や自治会の活動」は、男性の割合が女性の割合を 7.1 ポイント上回り、「保護者会やPTA活動」は、女性の割合が男性の割合を 12.2 ポイント上回っています。



性・年齢別にみると、「保護者会やPTA活動」への参加については、女性の30～49歳が3～4割台となっています。また、「町会や自治会の活動」への参加については、男性の60歳以上が4割台となっています。一方、「参加している活動はない」の割合は、男性において年齢が高くなるにつれ減る傾向があります。

図表 I-77 地域活動への参加状況（性・年齢別）

	合計	町会や自治会の活動	趣味・子育てなどのサークル活動	保護者会やPTA活動	NPO、ボランティアなどの市民活動	スポーツ活動などの指導や育成	審議会、委員会などの政策決定にかかわる活動	その他	参加している活動はない	無回答
全体	752 100.0	207 27.5	115 15.3	111 14.8	37 4.9	21 2.8	3 0.4	11 1.5	381 50.7	27 3.6
男性/18～19歳	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0
20～29歳	24 100.0	2 8.3	2 8.3	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 70.8	1 4.2
30～39歳	39 100.0	8 20.5	2 5.1	5 12.8	0 0.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	28 71.8	1 2.6
40～49歳	36 100.0	9 25.0	6 16.7	8 22.2	1 2.8	3 8.3	0 0.0	0 0.0	22 61.1	1 2.8
50～59歳	49 100.0	16 32.7	4 8.2	6 12.2	1 2.0	1 2.0	0 0.0	1 2.0	28 57.1	1 2.0
60～69歳	55 100.0	25 45.5	10 18.2	0 0.0	1 1.8	1 1.8	0 0.0	0 0.0	25 45.5	1 1.8
70歳以上	55 100.0	24 43.6	15 27.3	1 1.8	4 7.3	1 1.8	1 1.8	2 3.6	23 41.8	1 1.8
女性/18～19歳	6 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 100.0	0 0.0
20～29歳	29 100.0	2 6.9	1 3.4	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	26 89.7	0 0.0
30～39歳	83 100.0	14 16.9	3 3.6	27 32.5	3 3.6	3 3.6	0 0.0	1 1.2	45 54.2	1 1.2
40～49歳	97 100.0	23 23.7	14 14.4	44 45.4	6 6.2	5 5.2	0 0.0	2 2.1	35 36.1	1 1.0
50～59歳	87 100.0	18 20.7	13 14.9	12 13.8	4 4.6	2 2.3	1 1.1	1 1.1	50 57.5	1 1.1
60～69歳	71 100.0	26 36.6	18 25.4	2 2.8	8 11.3	3 4.2	1 1.4	0 0.0	29 40.8	3 4.2
70歳以上	75 100.0	28 37.3	18 24.0	3 4.0	5 6.7	0 0.0	0 0.0	4 5.3	28 37.3	8 10.7

※上段：回答数・下段：%

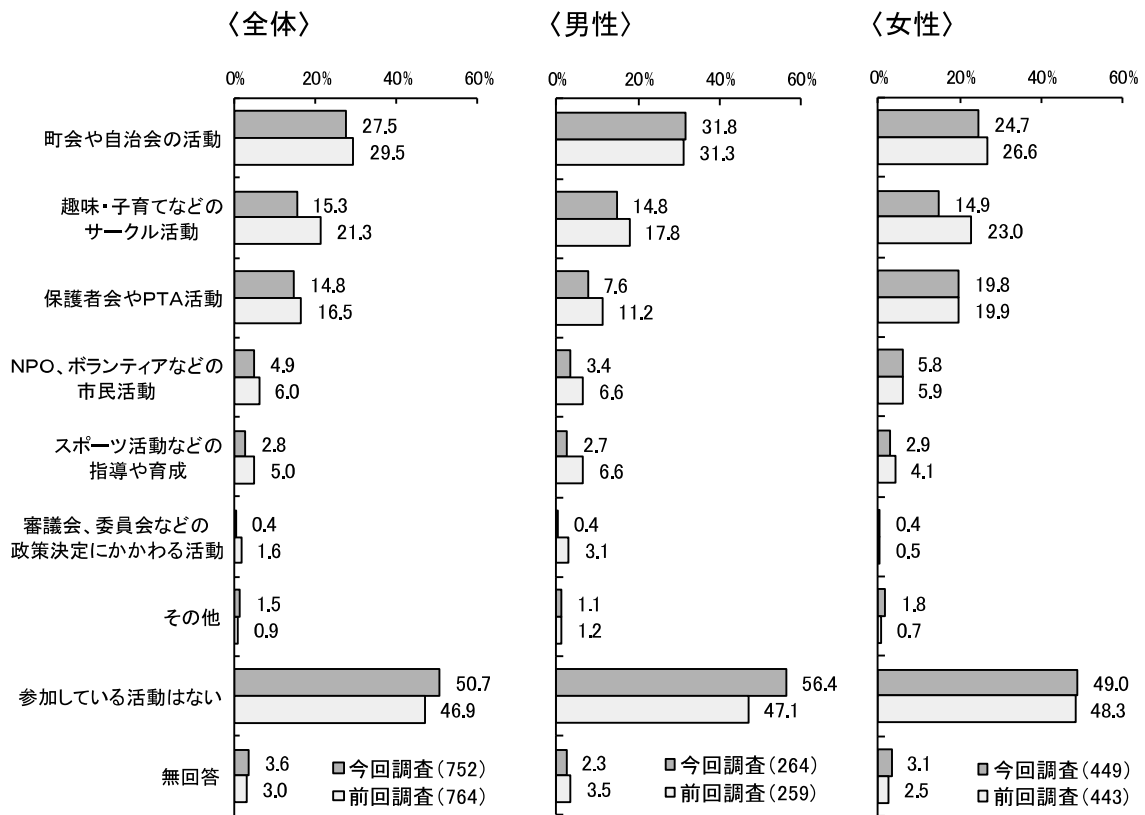
## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
 区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「趣味・子育てなどのサークル活動」は6.0ポイント減少しています。一方、「参加している活動はない」は3.8ポイント増加しています。

男女別にみると、女性の「参加している活動はない」が0.7ポイント増加しており、前回調査とほぼ変わっていませんが、男性は9.3ポイント増加しています。

図表 I-78 地域活動への参加状況（複数回答）



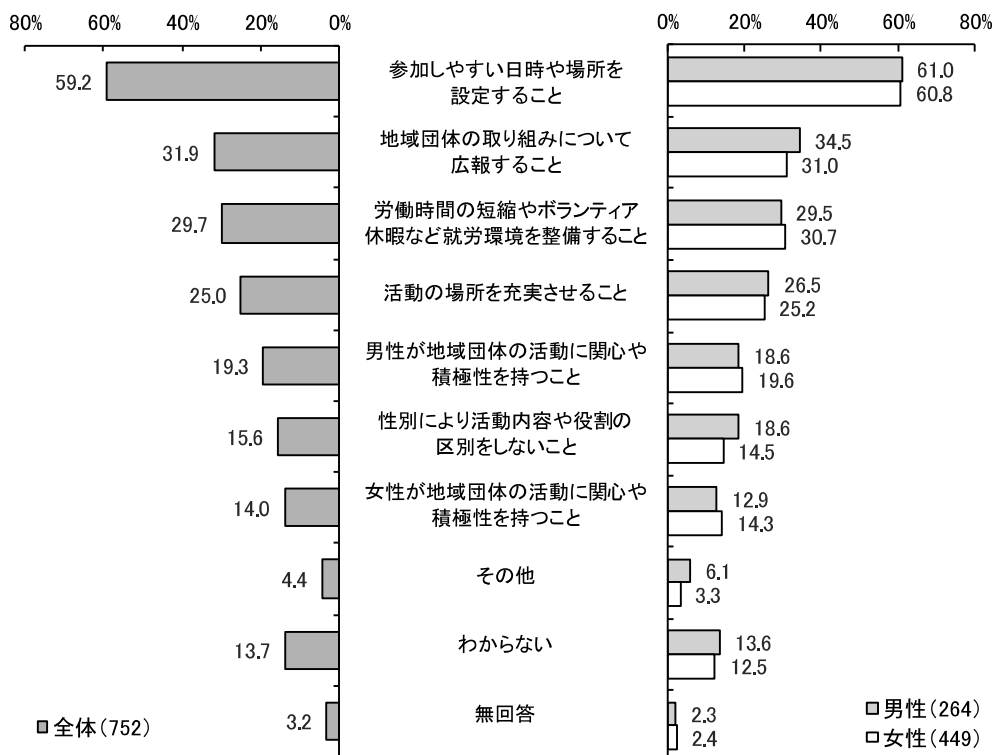
## (2) 男女とも地域活動に参加しやすくするため必要なこと

問 24 男性も女性も地域活動により参加しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女とも地域活動に参加しやすくするために必要なことについては、「参加しやすい日時や場所を設定すること」が59.2%と最も多く、次いで「地域団体の取り組みについて広報すること」が31.9%、「労働時間の短縮やボランティア休暇など就労環境を整備すること」が29.7%、「活動の場所を充実させること」が25.0%と続いています。

男女別にみると、「性別により活動内容や役割の区別をしないこと」は、男性の割合が女性の割合を4.1ポイント上回っています。

図表 I-79 男女とも地域活動に参加しやすくするため必要なこと（複数回答）



性・年齢別にみると、「参加しやすい日時や場所を設定すること」については、男女すべての年代で5割以上となっています。「労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備すること」については、女性の20～29歳で51.7%となっています。

図表 I-80 男女とも地域活動に参加しやすくするため必要なこと（性・年齢別）

	合計	参加しやすい日時や場所を設定すること	地域団体の取り組みについて広報すること	労働時間の短縮やボランティア休暇など、就労環境を整備すること	活動の場所を充実させること	男性が地域団体の活動に関心や積極性を持つこと	性別により活動内容や役割の区別をしないこと	女性が地域団体の活動に関心や積極性を持つこと	その他	わからない	無回答
全体	752 100.0	445 59.2	240 31.9	223 29.7	188 25.0	145 19.3	117 15.6	105 14.0	33 4.4	103 13.7	24 3.2
男性/18～19歳	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
20～29歳	24 100.0	12 50.0	7 29.2	6 25.0	9 37.5	3 12.5	3 12.5	2 8.3	2 8.3	3 12.5	1 4.2
30～39歳	39 100.0	26 66.7	16 41.0	17 43.6	10 25.6	6 15.4	7 17.9	4 10.3	6 15.4	3 7.7	0 0.0
40～49歳	36 100.0	24 66.7	11 30.6	11 30.6	11 30.6	7 19.4	4 11.1	4 11.1	3 8.3	2 5.6	1 2.8
50～59歳	49 100.0	32 65.3	11 22.4	19 38.8	8 16.3	4 8.2	6 12.2	2 4.1	1 2.0	8 16.3	1 2.0
60～69歳	55 100.0	32 58.2	25 45.5	17 30.9	18 32.7	13 23.6	16 29.1	11 20.0	2 3.6	8 14.5	1 1.8
70歳以上	55 100.0	30 54.5	19 34.5	7 12.7	13 23.6	14 25.5	13 23.6	10 18.2	2 3.6	11 20.0	2 3.6
女性/18～19歳	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
20～29歳	29 100.0	18 62.1	9 31.0	15 51.7	9 31.0	4 13.8	6 20.7	3 10.3	0 0.0	1 3.4	0 0.0
30～39歳	83 100.0	53 63.9	22 26.5	32 38.6	25 30.1	22 26.5	15 18.1	9 10.8	2 2.4	5 6.0	0 0.0
40～49歳	97 100.0	59 60.8	24 24.7	35 36.1	17 17.5	21 21.6	14 14.4	9 9.3	5 5.2	17 17.5	0 0.0
50～59歳	87 100.0	57 65.5	30 34.5	31 35.6	20 23.0	15 17.2	8 9.2	14 16.1	3 3.4	11 12.6	0 0.0
60～69歳	71 100.0	40 56.3	25 35.2	13 18.3	19 26.8	10 14.1	11 15.5	11 15.5	3 4.2	10 14.1	3 4.2
70歳以上	75 100.0	42 56.0	26 34.7	12 16.0	23 30.7	15 20.0	11 14.7	17 22.7	2 2.7	11 14.7	8 10.7

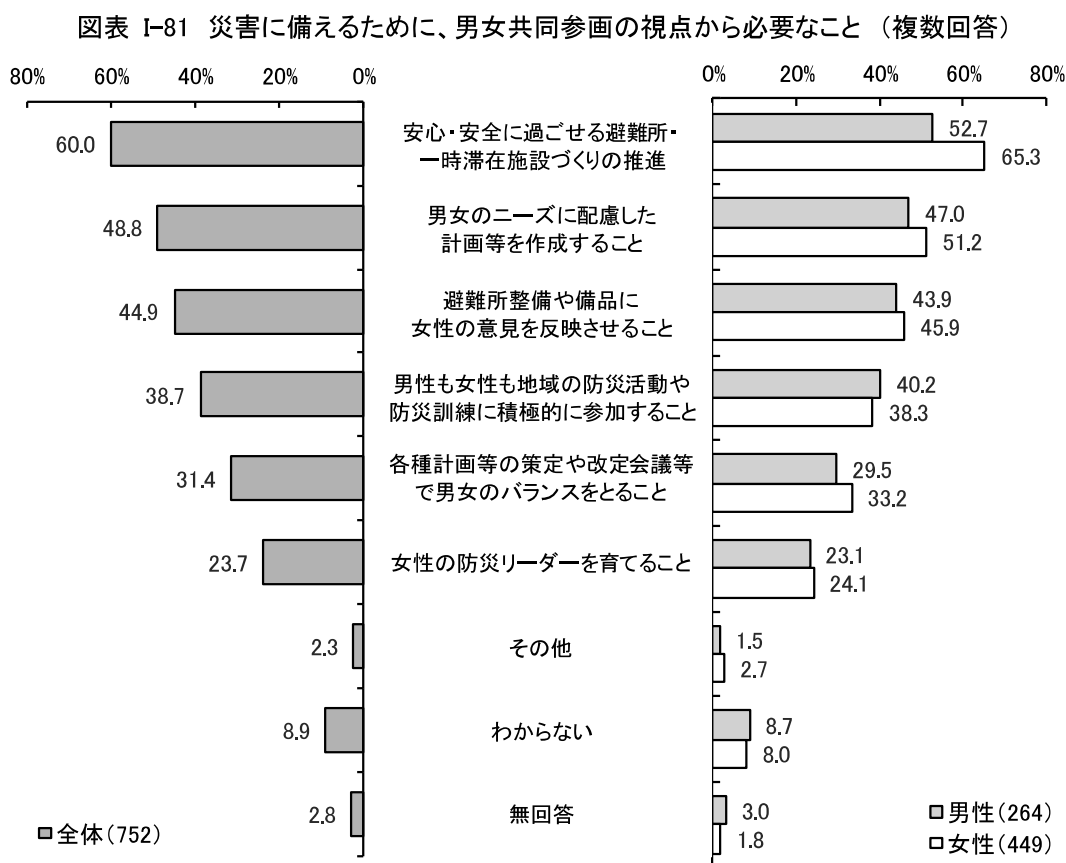
※上段：回答数・下段：%

### (3) 災害に備えるために、男女共同参画の視点から必要なこと

問 25 災害に備えるために、男女共同参画の視点から、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

災害に備えるために、男女共同参画の視点から必要なことについては、「女性、子ども、障害者及び要介護者等が安心・安全に過ごせる避難所・一時滞在施設づくりを推進すること」が60.0%と最も多く、次いで「災害から受ける影響の男女のニーズの違いに配慮した計画等を作成すること」が48.8%、「避難所整備や備品に女性の意見を反映させること」が44.9%、「男性も女性も地域の防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」が38.7%と続いています。

男女別にみると、「女性、子ども、障害者及び要介護者等が安心・安全に過ごせる避難所・一時滞在施設づくりを推進すること」は女性の割合が男性の割合を12.6ポイント上回っており、「男性も女性も地域の防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」は男性の割合が女性の割合を1.9ポイント上回っています。



## 1 2. 政策決定過程への女性の参画

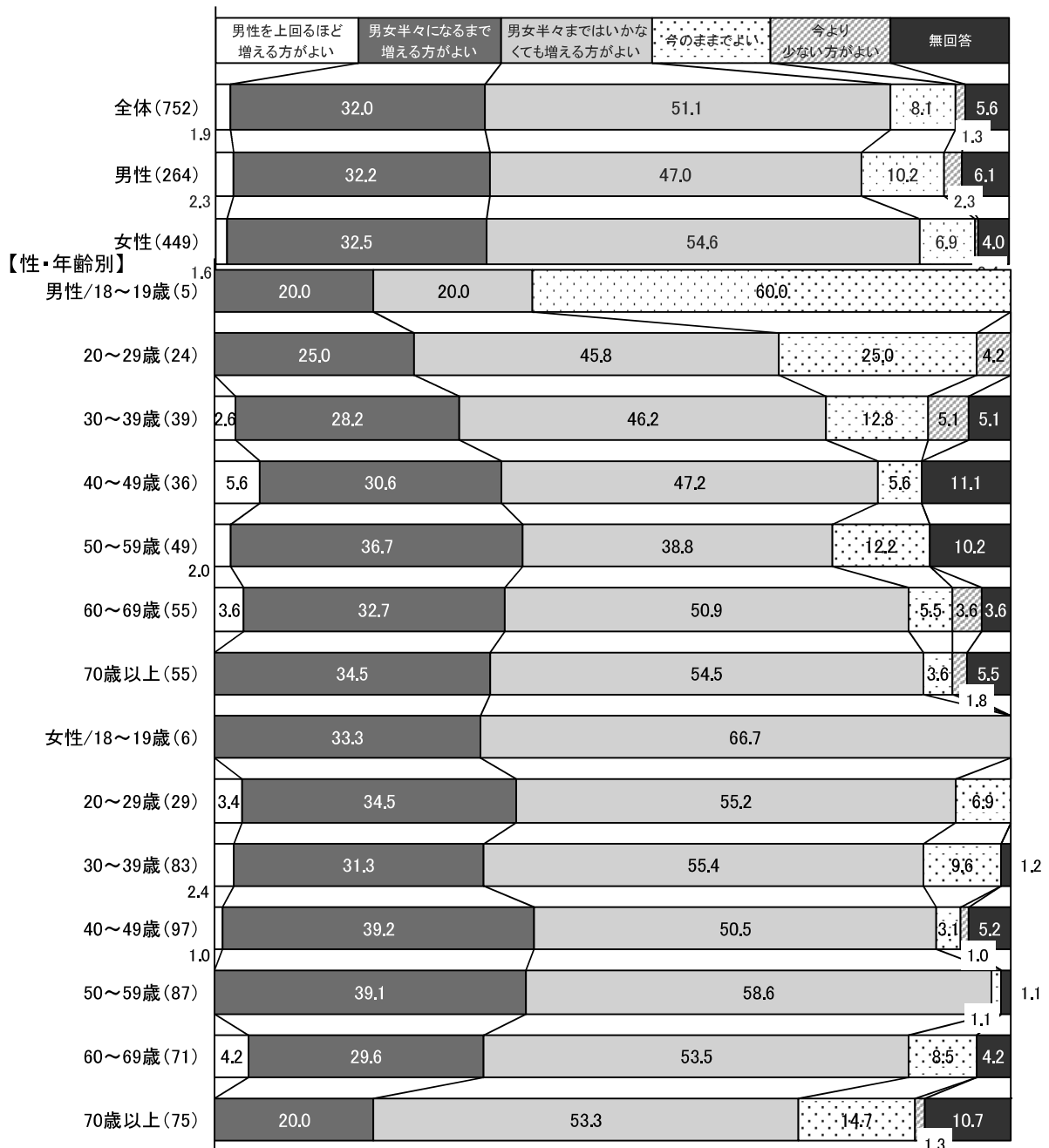
### (1) 政策決定の場への女性の参画に対する考え方

問 26 区議会議員や審議会委員など、政策決定の場への女性の参画についてどのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものはどれですか。(1 つに〇)

政策決定の場への女性の参画に対する考え方は、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が 51.1%と最も多く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が 32.0%、「今のままでよい」が 8.1%と続いています。

男女別、性・年齢別にみても、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」の割合は高くなっています。

図表 I-82 政策決定の場への女性の参画に対する考え方（単数回答）



### 1 3. 江東区の行政施策

#### (1) 男女共同参画推進に関する区の施策の認知度

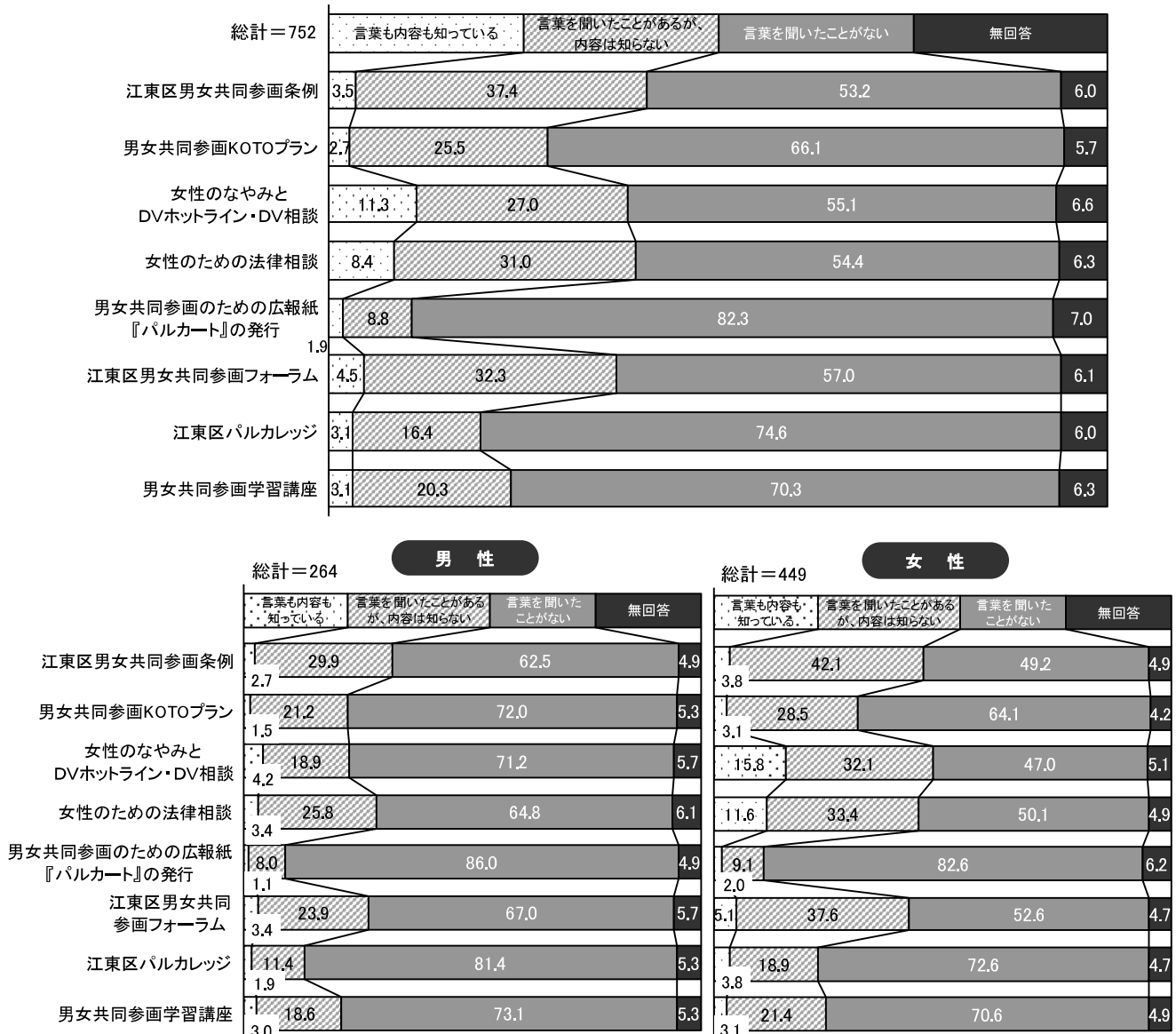
問 27 あなたは、次の（ア）～（ク）にある男女共同参画の推進のために区が制定した条例や計画、区が実施している啓発や相談等の取り組みをご存知ですか。

（それぞれ1つに○）

男女共同参画推進に関する区の施策の認知度については、全項目において5割以上が「言葉を聞いたことがない」と回答しています。

男女別にみると、女性は“男女共同参画のための広報紙『パルカート』の発行”、男性は“男女共同参画のための広報紙『パルカート』の発行”“江東区パルカレッジ”について、「言葉を聞いたことがない」と回答した割合が8割台を占めています。

図表 I-83 男女共同参画推進に関する区の施策の認知度（単数回答）





江東区内での居住年数別でみると、全項目において居住年数10年未満の「言葉を聞いたことがない」の割合が、居住年数10年以上の「言葉を聞いたことがない」の割合を上回っています。特に、“男女共同参画のための広報紙『パルカート』の発行”については、居住年数10年未満の「言葉を聞いたことがない」の割合が、92.2%と最も高くなっています。

図表 I-84 男女共同参画推進に関する区の施策の認知度（区内居住年数別）

		合計	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことがあるが内容は知らない	言葉を聞いたことがない	無回答
江東区男女共同参画条例	居住年数10年未満	219 100.0	2 0.9	60 27.4	150 68.5	7 3.2
	居住年数10年以上	519 100.0	24 4.6	216 41.6	245 47.2	34 6.6
江東区男女共同参画 KOTO プラン	居住年数10年未満	219 100.0	1 0.5	34 15.5	179 81.7	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	19 3.7	153 29.5	313 60.3	34 6.6
女性のなやみとDVホットライン・女性のなやみとDV相談	居住年数10年未満	219 100.0	18 8.2	58 26.5	138 63.0	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	65 12.5	143 27.6	270 52.0	41 7.9
女性のための法律相談	居住年数10年未満	219 100.0	10 4.6	60 27.4	144 65.8	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	51 9.8	171 32.9	259 49.9	38 7.3
男女共同参画のための広報紙『パルカート』の発行	居住年数10年未満	219 100.0	1 0.5	10 4.6	202 92.2	6 2.7
	居住年数10年以上	519 100.0	13 2.5	54 10.4	409 78.8	43 8.3
江東区男女共同参画フォーラム	居住年数10年未満	219 100.0	4 1.8	54 24.7	156 71.2	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	30 5.8	186 35.8	266 51.3	37 7.1
江東区パルカレッジ	居住年数10年未満	219 100.0	0 0.0	20 9.1	194 88.6	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	23 4.4	101 19.5	359 69.2	36 6.9
男女共同参画学習講座	居住年数10年未満	219 100.0	2 0.9	25 11.4	187 85.4	5 2.3
	居住年数10年以上	519 100.0	21 4.0	126 24.3	334 64.4	38 7.3

※上段：回答数・下段：%

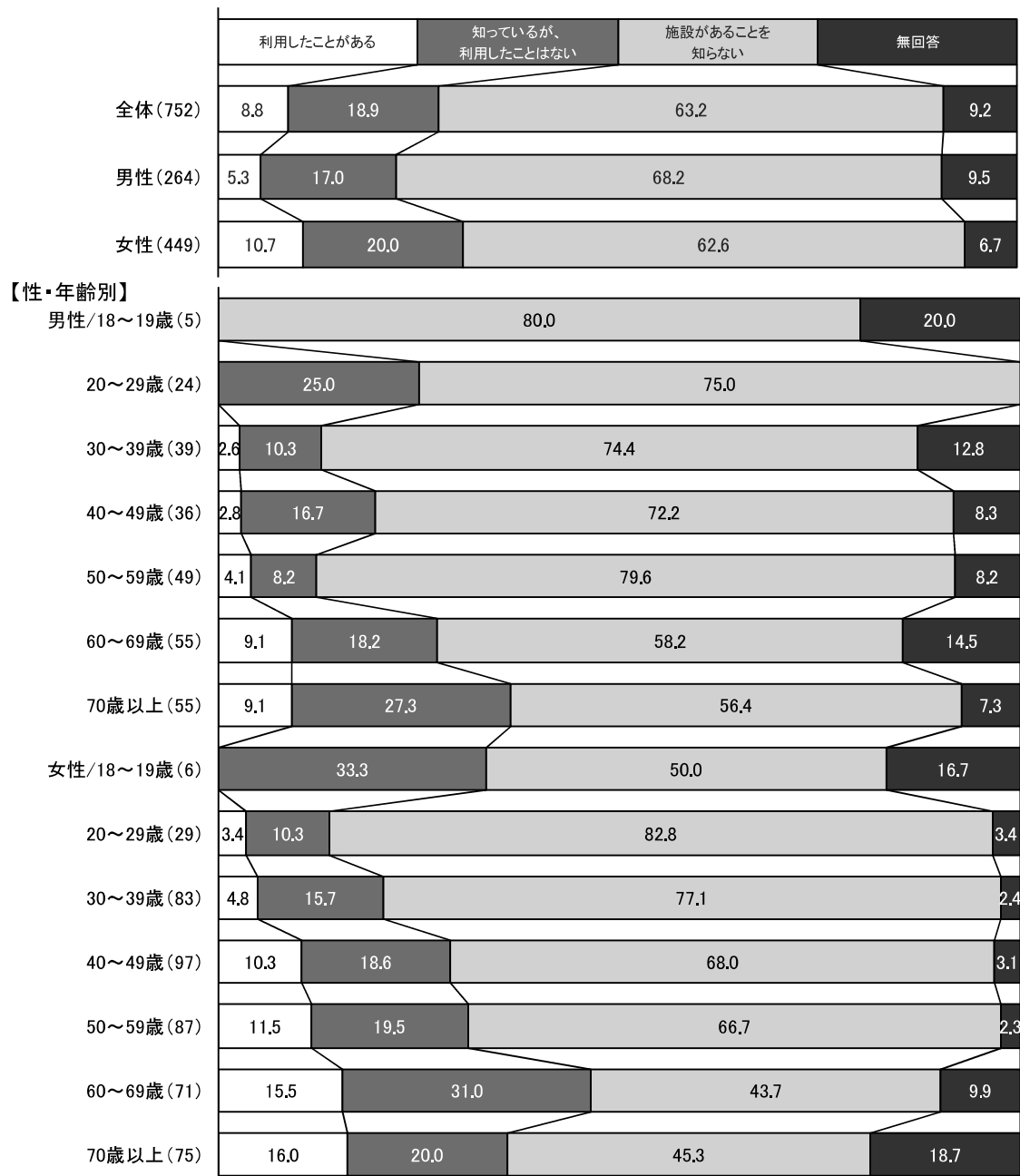
## (2) 男女共同参画推進センターの認知と利用

問 28 区では、男女共同参画推進のための拠点施設として「男女共同参画推進センター（パルシティ江東）」を設置しています。あなたは、この施設を利用したことがありますか。（1つに○）

男女共同参画推進センターの認知と利用については、「利用したことがある」が8.8%、「知っているが、利用したことはない」が18.9%となっており、『知っている』割合が27.7%となっています。

男女別にみると、『知っている』割合は、女性の割合が男性の割合を8.4ポイント上回っています。

図表 I-85 男女共同参画推進センターの認知と利用（単数回答）



※『知っている』＝「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」

## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「施設があることを知らない」の割合が1.7ポイント増加しています。

男女別にみると、男性の「利用したことがある」割合が2.2ポイント増加しています。

図表 I-86 男女共同参画推進センターの認知と利用（単数回答）

	利用したことがある	知っているが、 利用したことはない	施設があることを 知らない	無回答
【全体】今回調査(752)	8.8	18.9	63.2	9.2
前回調査(764)	9.2	21.5	61.5	7.9
【男性】今回調査(264)	5.3	17.0	68.2	9.5
前回調査(259)	3.1	18.5	69.5	8.9
【女性】今回調査(449)	10.7	20.0	62.6	6.7
前回調査(443)	12.4	23.3	57.6	6.8

※『知っている』＝「利用したことがある」＋「知っているが、利用したことはない」

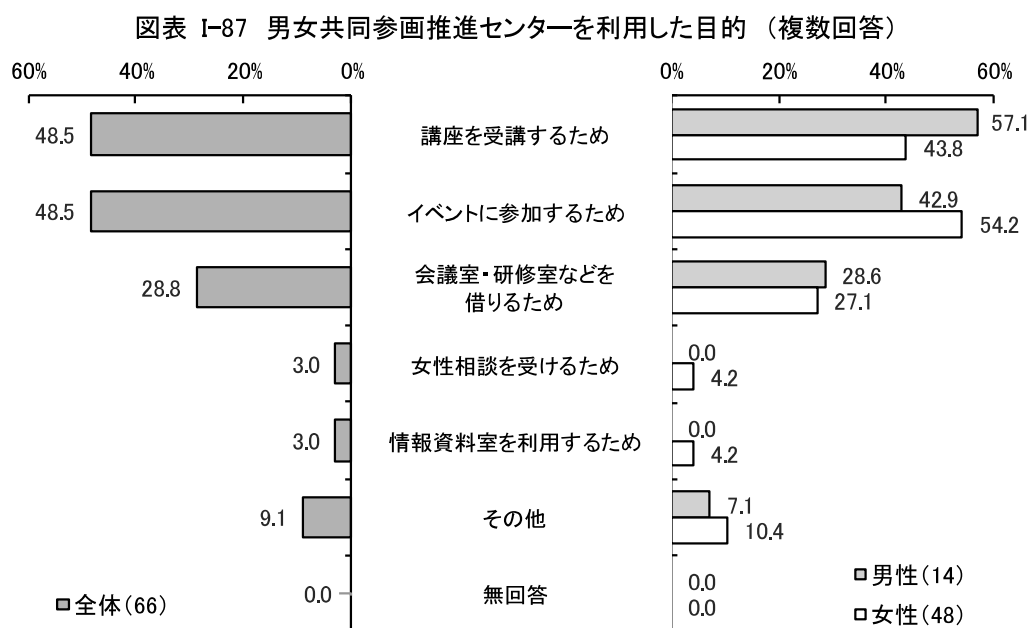
### (3) 男女共同参画推進センターを利用した目的

※問 28 で「1. 利用したことがある」を選ばれた方にかがいます。

問 28-1 どのような目的で利用されましたか。(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画推進センターを利用した目的については、「講座を受講するため」「イベント（パルシティまつりなど）に参加するため」がともに 48.5%となっています。

男女別にみると、「講座を受講するため」は、男性の割合が女性の割合を、13.3ポイント上回っています。一方、「イベント（パルシティまつりなど）に参加するため」は、女性の割合が男性の割合を 11.3ポイント上回っています。



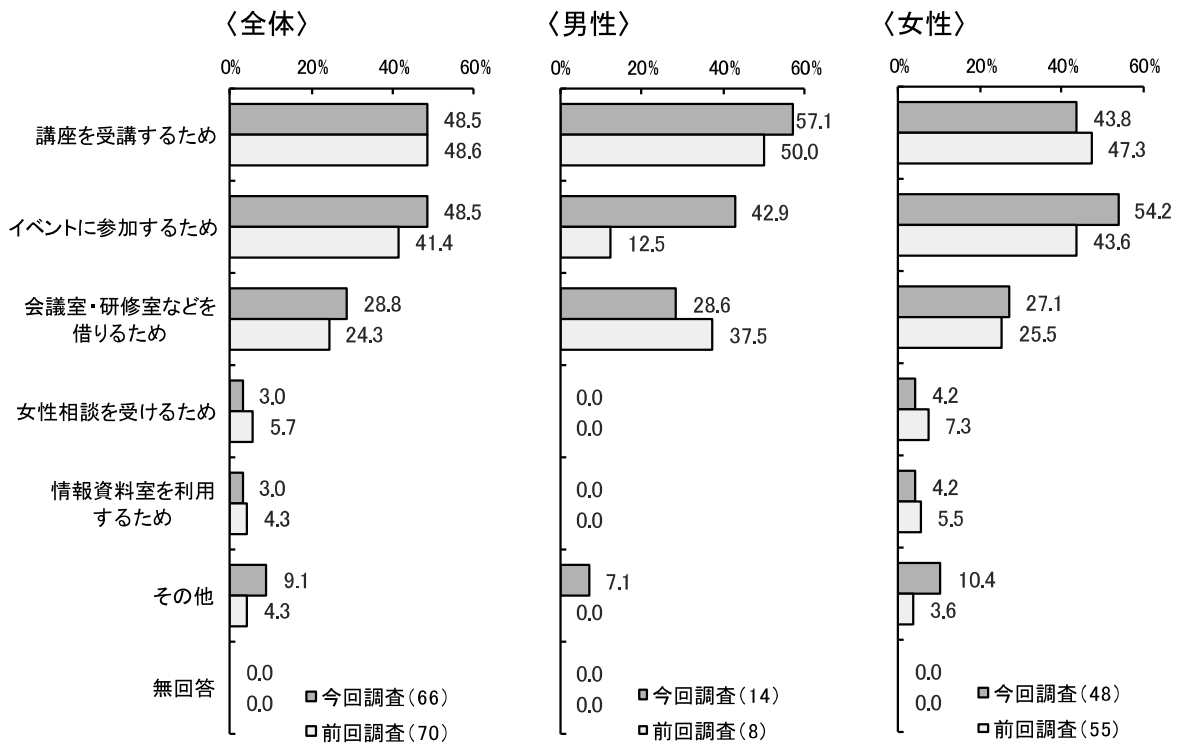
## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「イベント（パルシティまつりなど）に参加するため」の割合が7.1ポイント増加しています。

男女別にみると、「イベント（パルシティまつりなど）に参加するため」については、男性が30.4ポイント、女性が10.6ポイント増加しています。

図表 I-88 男女共同参画推進センターを利用した目的（複数回答）



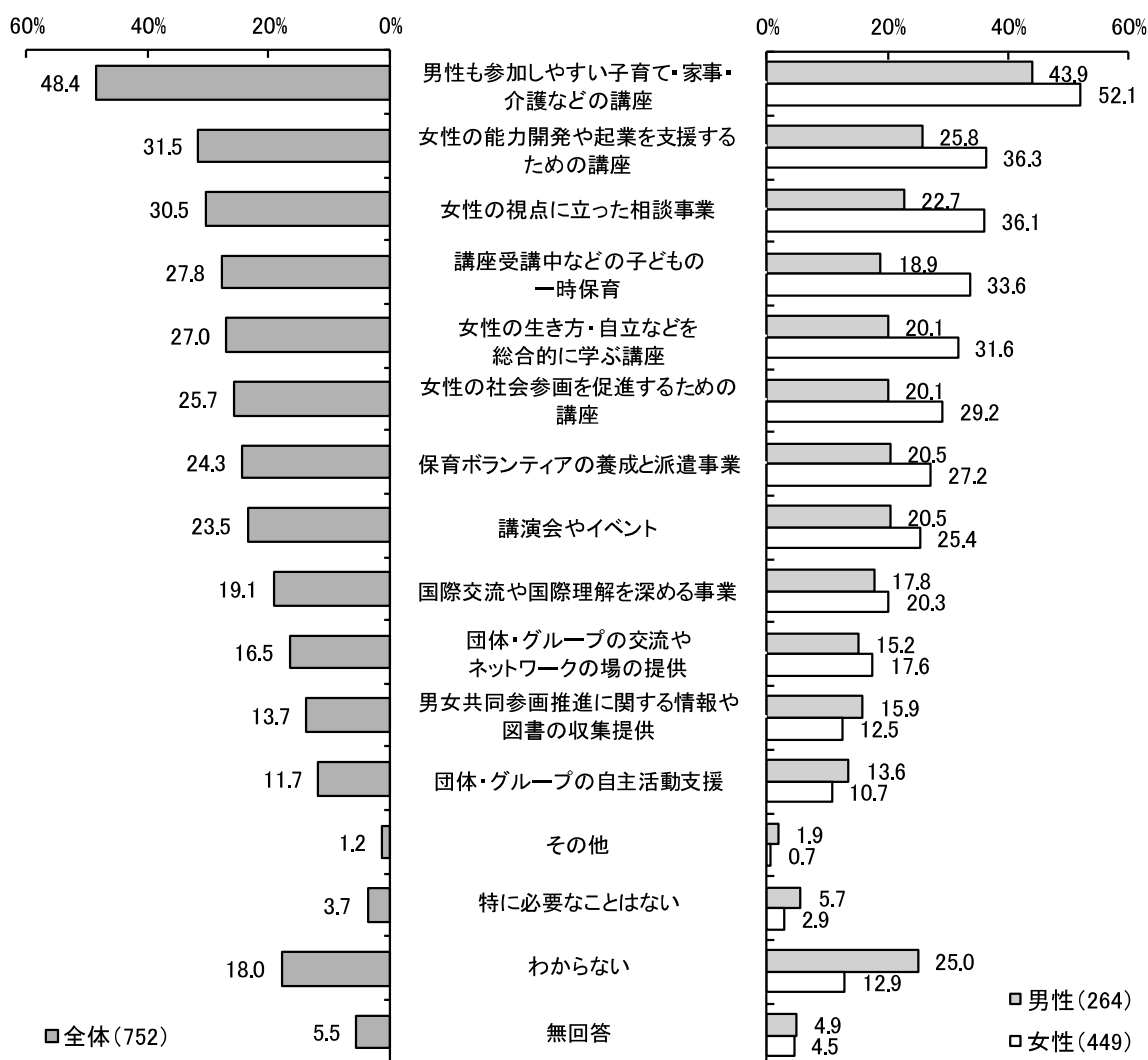
#### (4) 男女共同参画推進センターで今後必要な事業・講座

問 29 あなたは今後、「男女共同参画推進センター（パルシティ江東）」でどのような事業・講座が必要だと思いますか。（あてはまるもの5つに○）

男女共同参画推進センターで今後必要な事業・講座については、「男性も参加しやすい子育て・家事・介護などの講座」が48.4%と最も多く、次いで「女性の能力開発や起業を支援するための講座」が31.5%、「女性の視点に立った相談事業（女性のなやみとDV相談、女性のための法律相談など）」が30.5%、「講座受講中などの子どもの一時保育」が27.8%と続いています。

男女別にみると、「講座受講中などの子どもの一時保育」は女性の割合が男性の割合を14.7ポイント上回っています。

図表 I-89 男女共同参画推進センターで今後必要な事業・講座（複数回答）



性・年齢別にみると、「女性の能力開発や起業を支援するための講座」については、男性の30～39歳と、女性の20～69歳で3～4割台となっています。また、「講座受講中などの子どもの一時保育」については、女性の30～39歳の割合が53.0%と最も高くなっています。

図表 I-90 男女共同参画推進センターで今後必要な事業・講座（性・年齢別）

	合計	男性も参加しやすい子育て・家事・介護などの講座	女性の能力開発や起業を支援するための講座	女性の視点に立った相談事業	講座受講中などの子どもの一時保育	女性の生き方・自立などを総合的に学ぶ講座	女性の社会参画を促進するための講座	保育ボランティアの養成と派遣事業	講演会やイベント	国際交流や国際理解を深める事業	団体・グループの交流やネットワークの場の提供	男女共同参画推進に関する情報や図書の収集提供	団体・グループの自主活動支援	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全体	752 100.0	364 48.4	237 31.5	229 30.5	209 27.8	203 27.0	193 25.7	183 24.3	177 23.5	144 19.1	124 16.5	103 13.7	88 11.7	9 1.2	28 3.7	135 18.0	41 5.5
男性/18～19歳	5 100.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0
20～29歳	24 100.0	14 58.3	4 16.7	7 29.2	5 20.8	1 4.2	7 29.2	5 20.8	4 16.7	5 20.8	4 16.7	6 25.0	6 25.0	1 4.2	1 4.2	6 25.0	0 0.0
30～39歳	39 100.0	16 41.0	13 33.3	7 17.9	9 23.1	10 25.6	6 15.4	11 28.2	7 17.9	11 28.2	6 15.4	4 10.3	1 2.6	2 5.1	3 7.7	7 17.9	1 2.6
40～49歳	36 100.0	19 52.8	8 22.2	4 11.1	7 19.4	8 22.2	5 13.9	7 19.4	6 16.7	4 11.1	0 0.0	6 16.7	2 5.6	1 2.8	3 8.3	8 22.2	2 5.6
50～59歳	49 100.0	22 44.9	13 26.5	12 24.5	8 16.3	9 18.4	11 22.4	12 24.5	11 22.4	13 26.5	8 16.3	8 16.3	5 10.2	1 2.0	3 6.1	11 22.4	3 6.1
60～69歳	55 100.0	23 41.8	16 29.1	18 32.7	14 25.5	12 21.8	11 20.0	12 21.8	15 27.3	9 16.4	14 25.5	13 23.6	15 27.3	0 0.0	2 3.6	12 21.8	4 7.3
70歳以上	55 100.0	19 34.5	13 23.6	12 21.8	7 12.7	12 21.8	12 21.8	7 12.7	10 18.2	5 9.1	8 14.5	5 9.1	7 12.7	0 0.0	3 5.5	20 36.4	2 3.6
女性/18～19歳	6 100.0	4 66.7	1 16.7	3 50.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	0 0.0	5 83.3	2 33.3	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	29 100.0	20 69.0	13 44.8	10 34.5	11 37.9	12 41.4	8 27.6	12 41.4	5 17.2	10 34.5	5 17.2	6 20.7	0 0.0	0 0.0	1 3.4	1 3.4	0 0.0
30～39歳	83 100.0	52 62.7	39 47.0	21 25.3	44 53.0	28 33.7	22 26.5	30 36.1	19 22.9	17 20.5	10 12.0	3 3.6	8 9.6	0 0.0	2 2.4	10 12.0	1 1.2
40～49歳	97 100.0	41 42.3	32 33.0	31 32.0	34 35.1	25 25.8	22 22.7	23 23.7	21 21.6	18 18.6	24 24.7	9 9.3	6 6.2	1 1.0	5 5.2	14 14.4	5 5.2
50～59歳	87 100.0	52 59.8	35 40.2	48 55.2	28 32.2	30 34.5	29 33.3	26 29.9	30 34.5	20 23.0	21 24.1	10 11.5	10 11.5	1 1.1	1 1.1	9 10.3	1 1.1
60～69歳	71 100.0	39 54.9	25 35.2	32 45.1	22 31.0	24 33.8	26 36.6	16 22.5	21 29.6	10 14.1	11 15.5	12 16.9	9 12.7	1 1.4	2 2.8	9 12.7	4 5.6
70歳以上	75 100.0	25 33.3	18 24.0	17 22.7	8 10.7	21 28.0	23 30.7	12 16.0	17 22.7	10 13.3	6 8.0	15 20.0	13 17.3	0 0.0	2 2.7	15 20.0	9 12.0

※上段：回答数・下段：%

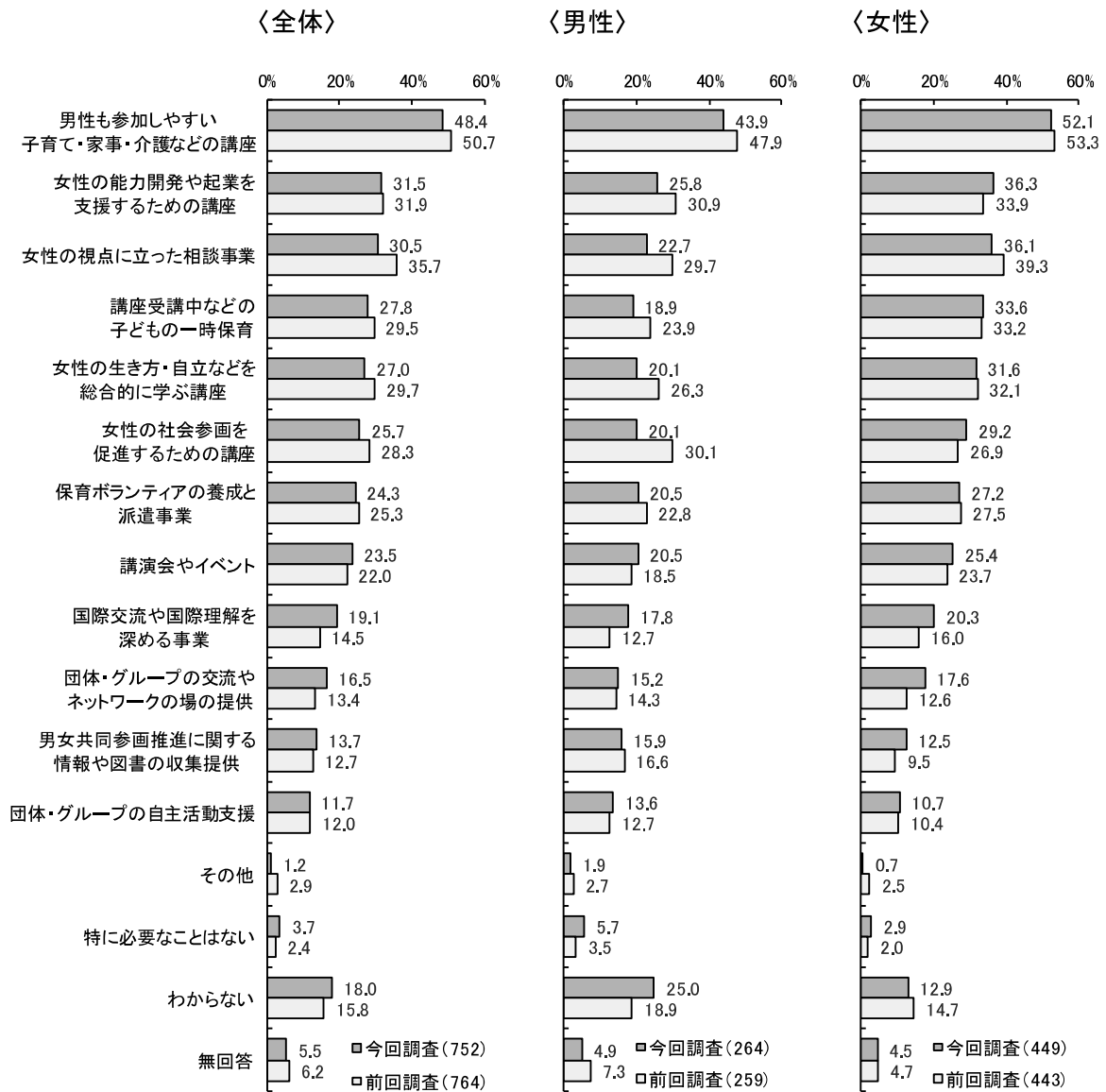
## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「女性の視点に立った相談事業（女性のなやみとDV相談、女性のための法律相談など）」の割合が5.2ポイント減少しています。

男女別にみると、「女性の社会参画を促進するための講座」については、男性が10.0ポイント減少しています。

図表 I-91 男女共同参画推進センターで今後必要な事業・講座（複数回答）





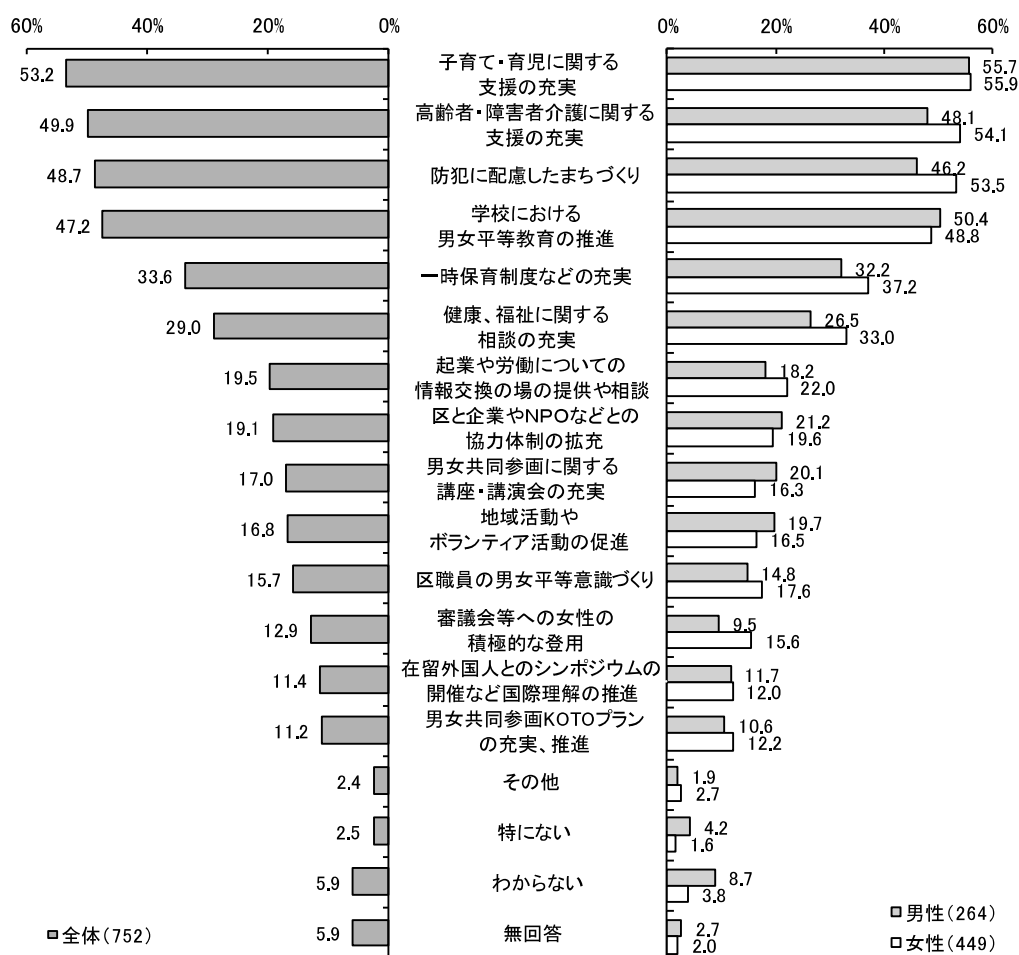
## (5) 江東区に求められる男女共同参画推進施策

問 30 男女の人権が尊重され、様々な分野とともに参画できる「男女共同参画社会」を築いていくために、区は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。  
(あてはまるもの5つに○)

江東区に求められる男女共同参画推進施策については、「子育て・育児に関する支援の充実」が53.2%と最も多く、次いで「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」が49.9%、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」が48.7%、「学校における男女平等教育の推進」が47.2%と続いています。

男女別にみると、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」は7.3ポイント、「健康、福祉に関する相談の充実」は6.5ポイント、女性の割合が男性の割合を上回っています。

図表 I-92 江東区に求められる男女共同参画推進施策（複数回答）



性・年齢別にみると、「一時保育制度などの充実」については、男女ともに30～39歳が6割台となっています。「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」については、女性の50歳以上が6割台となっています。

図表 I-93 江東区に求められる男女共同参画推進施策（性・年齢別）

	合計	子育て・育児に関する支援の充実	高齢者・障害者介護に関する支援の充実	防犯に配慮したまちづくり	学校における男女平等教育の推進	一時保育制度などの充実	健康、福祉に関する相談の充実	起業や労働についての情報交換の場の提供や相談	区と企業やNPOなどの協力体制の拡充	男女共同参画に関する講座・講演会の充実	地域活動やボランティア活動の促進	区職員の男女平等意識づくり	審議会等への女性の積極的な登用	在留外国人とのシンポジウムの開催など国際理解の推進	男女共同参画KOTOプランの充実、推進	その他	特になし	わからない	無回答
全体	752 100.0	400 53.2	375 49.9	366 48.7	355 47.2	253 33.6	218 29.0	147 19.5	144 19.1	128 17.0	126 16.8	118 15.7	97 12.9	86 11.4	84 11.2	18 2.4	19 2.5	44 5.9	44 5.9
男性/18～19歳	5 100.0	5 100.0	3 60.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	24 100.0	18 75.0	8 33.3	10 41.7	13 54.2	10 41.7	4 16.7	2 8.3	7 29.2	2 8.3	5 20.8	4 16.7	3 12.5	6 25.0	4 16.7	2 8.3	1 4.2	2 8.3	0 0.0
30～39歳	39 100.0	30 76.9	17 43.6	19 48.7	21 53.8	24 61.5	4 10.3	9 23.1	6 15.4	5 12.8	6 15.4	6 15.4	3 7.7	8 20.5	2 5.1	1 2.6	2 5.1	1 2.6	0 0.0
40～49歳	36 100.0	25 69.4	21 58.3	23 63.9	19 52.8	12 33.3	13 36.1	6 16.7	4 11.1	8 22.2	3 8.3	6 16.7	2 5.6	1 2.8	4 11.1	1 2.8	1 2.8	0 0.0	2 5.6
50～59歳	49 100.0	24 49.0	22 44.9	21 42.9	21 42.9	11 22.4	14 28.6	7 14.3	9 18.4	9 18.4	10 20.4	7 14.3	7 14.3	6 12.2	3 6.1	0 0.0	2 4.1	8 16.3	1 2.0
60～69歳	55 100.0	27 49.1	31 56.4	27 49.1	30 54.5	16 29.1	21 38.2	16 29.1	15 27.3	14 25.5	15 27.3	9 16.4	6 10.9	5 9.1	7 12.7	1 1.8	2 3.6	3 5.5	1 1.8
70歳以上	55 100.0	17 30.9	25 45.5	20 36.4	25 45.5	10 18.2	12 21.8	7 12.7	14 25.5	14 25.5	12 21.8	5 9.1	4 7.3	4 7.3	8 14.5	0 0.0	3 5.5	9 16.4	3 5.5
女性/18～19歳	6 100.0	5 83.3	3 50.0	3 50.0	5 83.3	4 66.7	3 50.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20～29歳	29 100.0	25 86.2	15 51.7	17 58.6	17 58.6	14 48.3	9 31.0	8 27.6	9 31.0	4 13.8	3 10.3	4 13.8	3 10.3	3 10.3	3 10.3	1 3.4	1 3.4	0 0.0	0 0.0
30～39歳	83 100.0	64 77.1	30 36.1	48 57.8	41 49.4	51 61.4	20 24.1	31 37.3	13 15.7	10 12.0	6 7.2	17 20.5	10 12.0	13 15.7	5 6.0	2 2.4	1 1.2	3 3.6	1 1.2
40～49歳	97 100.0	51 52.6	39 40.2	56 57.7	39 40.2	29 29.9	30 30.9	14 14.4	12 12.4	16 16.5	12 12.4	17 17.5	17 17.5	14 14.4	10 10.3	4 4.1	1 1.0	6 6.2	2 2.1
50～59歳	87 100.0	46 52.9	60 69.0	42 48.3	44 50.6	31 35.6	30 34.5	20 23.0	21 24.1	17 19.5	16 18.4	18 20.7	19 21.8	11 12.6	14 16.1	2 2.3	1 1.1	3 3.4	1 1.1
60～69歳	71 100.0	37 52.1	48 67.6	36 50.7	38 53.5	26 36.6	30 42.3	19 26.8	18 25.4	11 15.5	16 22.5	13 18.3	14 19.7	10 14.1	7 9.9	1 1.4	0 0.0	1 1.4	2 2.8
70歳以上	75 100.0	22 29.3	48 64.0	37 49.3	34 45.3	12 16.0	26 34.7	7 9.3	13 17.3	13 17.3	21 28.0	8 10.7	7 9.3	3 4.0	15 20.0	2 2.7	3 4.0	4 5.3	3 4.0

※上段：回答数・下段：%

末子の成長段階別にみると、「子育て・育児に関する支援の充実」については、末子が小学校入学前で 84.9%、小学生で 64.0%となっています。「防犯に配慮したまちづくり」は、末子が小学生の 62.0%、「一時保育制度などの充実」は、末子が小学校入学前の 61.3%といずれも高い割合になっています。

図表 I-94 江東区に求められる男女共同参画推進施策（末子の成長段階別）

	合計	子育て・育児に関する支援の充実	高齢者・障害者介護に関する支援の充実	防犯に配慮したまちづくり	学校における男女平等教育の推進	一時保育制度などの充実	健康、福祉に関する相談の充実	起業や労働についての情報交換の場の提供や相談	区と企業やNPOなどとの協力体制の拡充	男女共同参画に関する講座・講演会の充実	
全体	752 100.0	400 53.2	375 49.9	366 48.7	355 47.2	253 33.6	218 29.0	147 19.5	144 19.1	128 17.0	
末子の成長段階別	子どもはいない	273 100.0	151 55.3	131 48.0	121 44.3	141 51.6	95 34.8	86 31.5	61 22.3	62 22.7	53 19.4
	小学校入学前	93 100.0	79 84.9	33 35.5	54 58.1	51 54.8	57 61.3	19 20.4	21 22.6	12 12.9	8 8.6
	小学生	50 100.0	32 64.0	21 42.0	31 62.0	21 42.0	19 38.0	14 28.0	10 20.0	9 18.0	8 16.0
	中学生	27 100.0	11 40.7	14 51.9	13 48.1	12 44.4	6 22.2	7 25.9	5 18.5	3 11.1	5 18.5
	高校生	21 100.0	12 57.1	13 61.9	12 57.1	6 28.6	4 19.0	5 23.8	4 19.0	2 9.5	3 14.3
	上記以外	247 100.0	103 41.7	142 57.5	119 48.2	109 44.1	65 26.3	75 30.4	43 17.4	50 20.2	45 18.2

	合計	地域活動やボランティア活動の促進	区職員の男女平等意識づくり	審議会等への女性の積極的な登用	在留外国人とのシンポジウム開催など国際理解の推進	男女共同参画KOTOプランの充実、推進	その他	特になし	わからない	無回答	
全体	752 100.0	126 16.8	118 15.7	97 12.9	86 11.4	84 11.2	18 2.4	19 2.5	44 5.9	44 5.9	
末子の成長段階別	子どもはいない	273 100.0	41 15.0	58 21.2	39 14.3	40 14.7	37 13.6	8 2.9	8 2.9	10 3.7	15 5.5
	小学校入学前	93 100.0	10 10.8	15 16.1	13 14.0	14 15.1	6 6.5	3 3.2	1 1.1	3 3.2	1 1.1
	小学生	50 100.0	5 10.0	10 20.0	7 14.0	4 8.0	7 14.0	2 4.0	1 2.0	2 4.0	1 2.0
	中学生	27 100.0	2 7.4	2 7.4	4 14.8	0 0.0	1 3.7	0 0.0	1 3.7	4 14.8	2 7.4
	高校生	21 100.0	4 19.0	1 4.8	5 23.8	3 14.3	1 4.8	0 0.0	1 4.8	2 9.5	0 0.0
	上記以外	247 100.0	59 23.9	30 12.1	27 10.9	22 8.9	29 11.7	4 1.6	6 2.4	18 7.3	17 6.9

※上段：回答数・下段：%

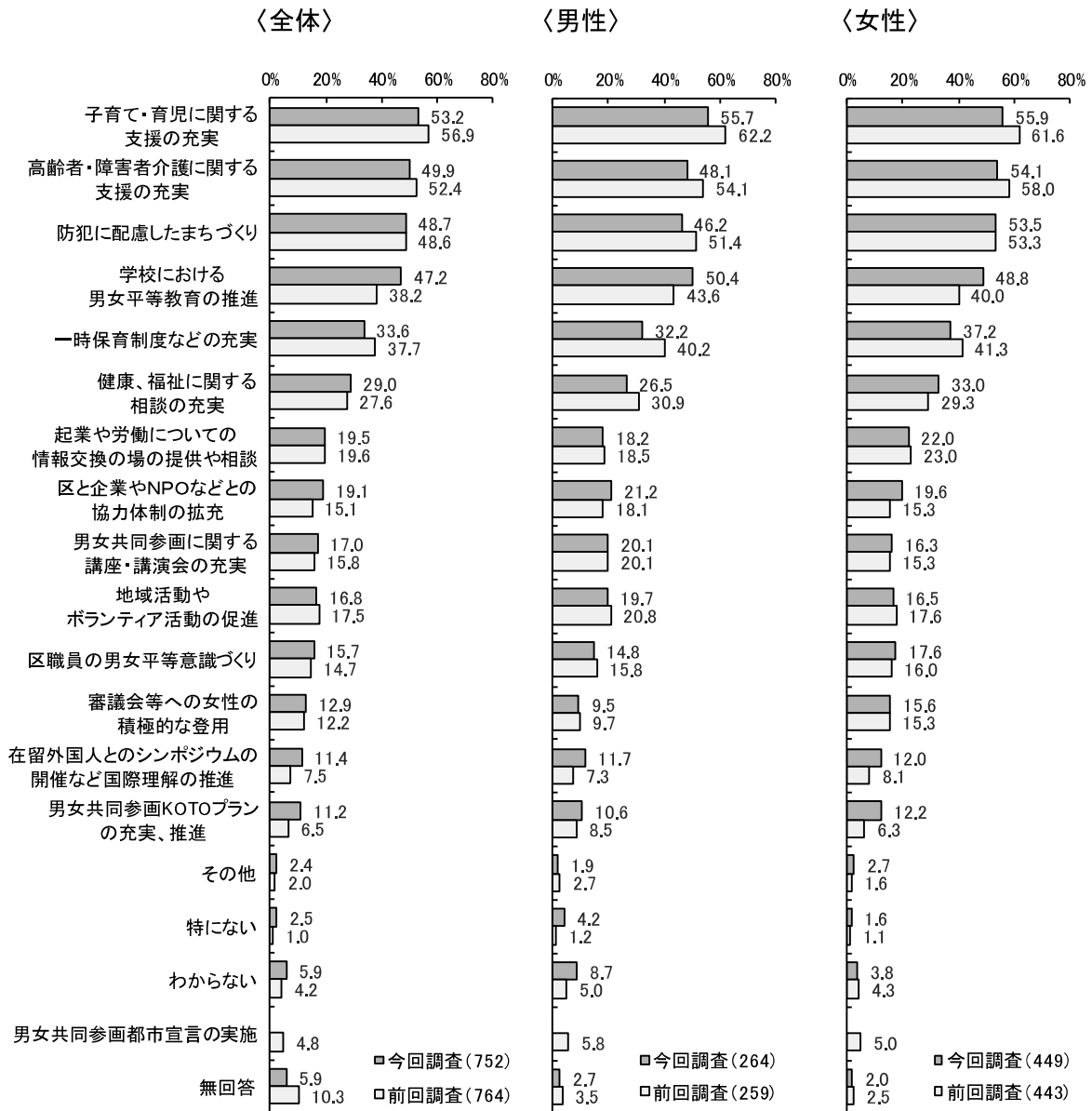
## 前回調査との比較

男女共同参画に関する意識実態調査（平成27年2月）  
区内在住20歳以上の男女2,000人 郵送配付、郵送回収による調査

前回調査と比較すると、「学校における男女平等教育の推進」については9.0ポイント増加しています。

男女別にみると、男性は、「一時保育制度などの充実」が8.0ポイント減少しています。一方、女性は、「学校における男女平等教育の推進」が8.8ポイント増加しています。

図表 I-95 江東区に求められる男女共同参画推進施策（複数回答）



※「男女共同参画都市宣言の実施」=今回調査で削除した選択肢

## (6) 自由回答

問 31 性別に関わりなく、すべての人が互いを尊重し、ともに責任を果たす男女共同参画社会を実現するための行政の施策や、社会の制度のあり方などについて、特に望むことやご意見がありましたら、自由に記入してください。

男女共同参画社会を実現するための行政の施策や社会の制度のあり方などについての意見や要望を求めたところ、114 件ありました。

ここでは、主な意見や要望を紹介します。

内 容	件 数
(1)江東区の行政や施策に望むこと	35 件
(2)男女平等・男女共同参画に関する全般的な考え方	23 件
(3)保育や育児・教育に関すること	16 件
(4)「すべての人が互いを尊重しあう」ことに関すること	11 件
(5)雇用・就労の場における男女共同参画に関すること	8 件
(6)地域・社会における男女共同参画に関すること	5 件
(7)高齢者施策など高齢化に関すること	4 件
(8)その他	12 件
合 計	114 件

### (1) 江東区の行政や施策に望むこと (35 件)

- 男性の家事／育児参加の例を海外から持ってきて良い制度は真似る。ex) スウェーデンは男性が育児休暇を取らないと損をする仕組みに社会がなっている。(女性／25～29 歳)
- 就職や雇用で男女平等に採用する制度が必要だと思う。待機児童をなくすために保育園などを増やし、区がお金を負担。介護にかかっている分を子どもの教育などにあて、女性が子を産み、働きやすい環境を作る。(女性／20～24 歳)
- 江東区は弱い人にやさしい場所であって欲しい。特に女性、障害者、高齢者等。  
(男性／65～69 歳)
- 問 30 の⑫「区職員の男女平等意識づくり」とありましたが、本当に男女平等意識づくりをしなければならぬと思います。男女の人権が尊重され、様々な分野にともに参画できる「男女共同参画社会」を築くのなら、まず区役所が先頭に立つ事だと思います。今回の「男女共同参画アンケート」は市民の人たちが改めて自分たちの住む町を考える事になり、市民の人たちも殺伐とした今の世の中を少しでも和らげる事になるかも知れません。  
(女性／70～74 歳)

- 制度として男女共同参画の学校教育や仕事（有休の保障、経済、評価の保障）の策定をしてほしい。（女性／35～39歳）
- 多分この計画自体知らない人が多いと思いますので、たくさんの人に知られるための何かしらの方法を考える必要があるかと思います。（男性／30～34歳）
- 情報、教育、知識は大切だと思う。また広報などの活動がないと、情報として広く知られていないと話にならない。行政はもう少し「伝える」事を工夫した方が良いと思う。DVは加害者が意識（相手にDVをはたらいている）があまりない場合が多いようなので、意識できるようにカウンセリングなどの場が広くあるといいと思う。（女性／45～49歳）
- この冊子の設問の一部もそうですが、社会一般が会社員や正職員であることを前提の施設・制度になっていると感じます。多様な働き方がある世の中で、もう少しどうにかならぬかなと思います。（女性／50～54歳）
- 性別に関わりなく、全ての人が互いを尊重し、ともに責任を果たす社会理念を実現するには、大きな壁があると思うが、行政に期待する。（男性／65～69歳）

## （2）男女平等・男女共同参画に関する全般的な考え方（23件）

- 男、女の区別や意識過剰になり過ぎないのも平等への一歩かも知れないと思います。（男性／60～64歳）
- 男女は平等であるが同質ではありません。そこに男女共同参画の難しさがあります。女性ばかりを保護する風潮は逆に男性を差別していることにもなります。男女が尊重しあうことができる社会が実現してほしいです。（女性／55～59歳）
- 女性が社会に出やすい環境を整えるだけでなく、男性が家庭に入りやすい環境を整えるべきだと思う。そのための啓発活動をしてほしい。（女性／35～39歳）
- 世代の差による男女間の考え方の異なりを感じる。（女性／75歳以上）
- 性の多様性への理解や男女平等の解消は、必ずしも「性差への尊重」とはならないと思う。ジェンダーレスな社会が新たな犯罪につながったり、負担や生きづらさにつながることも考慮していただきたいと思う。（女性／50～54歳）
- 男性、女性を思考停止的に平等とうたうのではなく、どの様に互いが補っていけるか考えていくべき。（男性／30～34歳）

## （3）保育や育児・教育に関すること（16件）

- これから未来のある小さい子供のうちから、色々ふれあう機会を増やすべき。家庭の仕事は女性がするのを見て育つ子供はそれが当たり前とってしまうので、そこも今日から、男性が何でもやる環境を、家庭内でも話し合うべき。（女性／40～44歳）

- 次の世代を担う（子どもの）育児へのサポート。男女どちらもその役割分担ができるよう施策作りをお願いしたい。（男性／75歳以上）
- 出産前後の両親学級：父親の参加をより呼びかける必要あり。児童館等での父親への対応：（少数の）参加者への配慮が必要。「ママたち～」の呼びかけしかないのは応えると思う。せめて職員には「父親が赤ちゃんと一緒に公共施設にアクセスすることは普通なこと」という意識を持ってほしい。保育園申込書類の多言語化も必要。（女性／35～39歳）
- 子育て、保育の場において男女が共に同じ程度の負担となるよう、外部（保育所など）の施設の充実。（女性／18～19歳）
- 仕事が忙しすぎて、男女共に子育てにさける時間をもっていない状況を改善してほしい。（女性／35～39歳）
- 男性が子育てに参加しやすくなるように、育児休業が取れたり、会社が理解できるような環境作りをしてほしい。講演会などをするにしても、もう少し参加しやすい日時にしてほしい。（女性／35～39歳）
- 教育現場への配慮①教員が多忙すぎる②子供達へ多様な生き方を時間をかけて指導する。（男性／65～69歳）

#### （４）「すべての人が互いを尊重しあう」ことに関すること（１１件）

- これから外国人は増えてくると思うので、接点をつなぐような場所を提供した方が住民の外国人に対する不安感を取り除けると思う。（男性／35～39歳）
- 女性に～が必要だから取り入れるのなら、男性にも何かをあげるべきだし、男性より女性が弱いのはわかるのだが、男性の中にも女性のように心配性の人や力の弱い人がいるので、“女性だから”ではなく、“弱い立場の人”という考えがよいと思う。（女性／18～19歳）
- とにかく女性の登用、女性の進出を増やす。LGBT、外国人等マイノリティの活躍の場を創る。（男性／35～39歳）
- そっとしてほしいと願って生きているLGBT等のマイノリティーの人々に光をあてないでください。むしろ彼、彼女らにとっては困ってしまうと思うから。実際、1年程前デモで騒ぎがあった時も、彼らはとても困ってました。そっとしておいた方がよいこともあると思います。（女性／50～54歳）
- 性的マイノリティにおけるパートナーシップの充実。（女性／18～19歳）

#### (5) 雇用・就労の場における男女共同参画に関すること（8件）

- 男女平等は当たり前のことと思うが、それをよしとしない女性側の立場・考え方もあると思う。事実、私の職場では“男女平等を求めるが、男性並みの責任は負いたくない”という女性も存在する。女性だけという観点よりも、基本働く人間全てが「働きやすくモチベーションをもって日々を過ごせる社会」を目指すべき。女性にだけ焦点をあてて考えると“あるべき論”に執着し、現実の場では機能しないのでは？（男性／50～54歳）
- 企業風土の見直し①公正、公平な評価②育児休業の奨励。（男性／65～69歳）
- 自分が勤めている会社でも女性の部長はいません。中小企業では、まだまだ女性は結婚して子どもを産み育児休暇を取ると企業内での出世がおくれます。もっと広く男女平等がいきわたらないとだめだと思います。（女性／55～59歳）

#### (6) 地域・社会における男女共同参画に関すること（5件）

- 法律的（制度）にも男女差がある。できることからなくしてほしい。女性自身にも変化が必要。主夫が専業で女性が働くことも当たり前になってほしい→パートナーが役割を分担して決めた生き方を、社会が認め、協力する世の中になるよう、啓蒙してほしい。  
（女性／50～54歳）
- 国、地域、社会、職場等の意識改革や理解が必要だと思います。（男性／35～39歳）
- 子育てや介護を男女共に協力していくことができる社会にしてほしい。この問題がある限り、女性が安心して社会に出て働くことはできないと思う。女性は子育てがやっと終わった頃に、介護が始まるので、保育園の充実や介護施設やヘルパーなどを増やして、安く利用できる社会にしてほしいと思います。（女性／50～54歳）

#### (7) 高齢者施策など高齢化に関すること（4件）

- これから高齢化社会になっていく日本で、男・女関係なく自分たちの親や配偶者の介護や、看護が必要となっていくと思われまます。男性も介護や看護に参加する事が当たり前の社会になってほしい。実際に身の回りの世話をするのはすべて女性で男性は病院や施設の送り迎えだけというのが現状です。（女性／50～54歳）
- 高齢化社会に向けたコミュニケーションの場の充実化と障害者、高齢者が楽しく生活していく上での生活費の安定化、つまり高齢者・障害者にとって働ける場を作る。就職・パート・アルバイトの楽しく働ける場・施設をもうける事。人手が足りない時代こそ、皆で考え対応してほしい。（男性／65～69歳）

#### (8) その他（12件）

- 「こうあるべき」といった固定概念をなくす事が必要だと思います。（男性／25～29歳）
- 当事者の意見を聞かないと、何も始まらないと思います。（女性／30～34歳）